

陳情第3号核兵器禁止条約に署名・批准を求める意見書の提出を求める陳情に賛成の立場で討論申し上げます。

私は、6月議会における発議第4号核兵器禁止条約への署名と批准を求める意見書にも賛成の立場で討論いたしました。今回は改めて市民の方より寄せられた陳情に対してですので、思いは同じではございますが改めて討論に参加させていただきます。

2017年7月にアメリカニューヨークの国連本部での条約交渉会議で核兵器禁止条約が採択されました。「核なき世界」を長年訴え続けてきた被爆者や条約批准国の関係者らは歓喜に包まれた光景は今でも目に焼き付いています。しかし、アメリカなど核保有国は批判声明を出して反発し、これに対して、日本政府も同調しその後も安全保障環境の現実を強調するだけでこれまでの姿勢を変えていません。その後、発効に必要な50か国が批准し、年が明け1月22日に発効する運びとなりました。数十年に及ぶ活動が、実を結ぶこととなり活動を継続されてこられた方々のご尽力は想像を超えるもので、大変な道のりだったはずですが。私たち、この国の歴史に刻まれた核兵器による被害を世界で唯一受けた国、その被害で亡くなった多くの犠牲者、またその後の人生を被爆者として生きなければならなかった人々への思いを私たちはしっかりと形にしていく責任があるはずです。

すべて履行し、禁止事項を遵守する必要があります。このことは、条約に未加入の国に対しても影響を与えることであると信じ、溝を深める新たな火種だと指摘する意見もありますが、それを乗り越える人道的な価値観で取り組むべきと考えます。筆舌に尽くしがたい惨状を歴史の中に閉じ込めるのではなく、未来の平和につなげるためにも必要な条約です。よって、私はこの陳情、核兵器禁止条約への批准を求め賛同いたします。